

平成 23 シカ年度 幌別-岩尾別地区、ルサ-相泊地区、知床岬地区 における環境省エゾシカ捕獲事業について

①幌別-岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲試験の検討

2003年と2011年調査の比較でシカ発見数は3倍以上に増加しており、個体数調整を行う上で、エゾシカを攪乱することなく効率的に捕獲を行うことが課題。また遺産地域内でもっとも公園利用者の多いエリアでもあり、知床岬やルサ-相泊とは異なる配慮も必要となる。

これらの背景を踏まえて、平成 23 シカ年度は各種捕獲手法の検討開発を行う期間として位置づけ、下記に具体的な事業内容を提案する(表1・図1)。

①-1. 小型囲いワナ(立木等利用仮設式・AIゲート導入)による捕獲

- 期間: 1月中旬設置し馴致・餌付誘引。1月下旬～2月捕獲。
3月以降はヒグマ出没の恐れがあるため実施しない。
- 実施場所: 1ヶ所、幌別地区(知床自然センター付近)。
- 検討事項: 林地内の比較的風の弱く、作業拠点に近い地区において、ワナ構造やAI式自動落下ゲートの動作の検証を行う。

①-2. くりワナによる小規模かつ機動的な手法による捕獲

- 期間: 12月から設置・餌付誘引。1～2月捕獲。
3月以降はヒグマ出没の恐れがあるため実施しない。
- 実施場所: 幌別地区で3ヶ所。各日20基程度のわなを稼働
- 検討事項: 知床における機動的に移設可能な新規のワナ捕獲手法開発。捕獲効率。発射音が大きい装薬銃や薬品が高価な麻酔薬を用いない電気式止め刺し法も試行。

①-3. 麻酔銃捕獲

- 期間: 3月21日～4月20日(町道岩尾別温泉道路開通まで)
- 実施場所: 冬期閉鎖中の町道岩尾別温泉道路沿線。
- 検討事項: 希少猛禽類生息地周辺における静粛性の高い捕獲法の検討。

①-4. 流し猟式SS

- 期間: 1月16～27日、3月21日～4月20日(知床五湖の冬期利用中は中断)
- 実施場所: 道道知床公園線(岩尾別ゲート～知床五湖道路分岐)、町道知床五湖道路沿線
- 検討事項: 小口径装薬銃による少数群殲滅型の捕獲。道路沿いとその周辺において餌付け無しで実施。捕獲実施によりエゾシカの警戒心が高まりスマートディア化しないか、エゾシカの分布の変化の有無を検証。

※他に、大型捕獲柵の構造や設置箇所について検討を進める。

表 1. 平成 23 シカ年度の幌別一岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲手法試験 (案)

手法	8~9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
					*シカ越冬地に移動開始		シカ海食台地縁、道路法面に集中		
	搬出・処理法に関する有効活用業者との交渉					冬期利用(岩尾別~五湖)	猛禽繁殖期		
				冬期閉鎖道路		流水期		3/10~4/20 除雪	4月25日頃 岩尾別ゲートオープン
実施手法案	1. 小型囲いワナ (幌別1基)			場所選定 ワナ設計	設置工事	餌付け 餌付け+捕獲 +捕獲1回	→ 3月以降は、ヒグマ活動期にて中止		餌付け・ワナ管理は1~2月ほぼ毎日
	2. くくりワナ (幌別約3ヶ所)		場所選定 ワナ選定		設置・餌付け 15日	餌付け+捕獲 稼働 25日	餌付け+捕獲 稼働 25日程度	→ 3月以降は、ヒグマ活動期にて中止	
	3. 麻酔捕獲 (町道岩尾別温泉道路)			路上発砲の法的検討と関係機関交渉			捕獲(+餌付け)	捕獲	
							3月下旬 2回捕獲	4月上旬 4回	
	4. 餌付け+車から狙撃(流し猟SS) (道道知床公園線-町道知床五湖道路)			路上発砲の法的検討と関係機関交渉、観光関係協議		捕獲4回	馴致・餌付け	捕獲(+餌付け)	捕獲(+餌付け)
						五湖の冬期利用期間は中断 (1/28-3/20)	3月後半 3回程度	4月、3回	
その他: 捕獲用大型囲い柵の検討 (岩尾別; 運動地+国有林)	現地調査 素案作成	第2回WGにて議論		知床岬大型囲い柵の捕獲結果を踏まえて、柵内の仕切り配置検討				知床岬大型囲い柵の捕獲結果を踏まえ、柵内の仕切り配置の再検討	具体計画作成



図1 平成23年度の幌別・岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲手法試験配置候補地、及び、捕獲用大型囲い柵配置案（H24年度以降検討）

注) 「巻狩り区画」とは、囲い柵などによる捕獲である程度シカの密度が低下した段階で、囲い柵フェンスなどを活用して巻狩りを行うことを検討する区画。

②ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲試験の検討

今年度は道道上からの銃による駆除を含め、多様な手法の検討を行うため、もう1シーズン手法試験と位置付ける。

ルサ川以北では、地形的制約から狭い地域内で複数の手法を組み合わせなければ、大幅な個体数削減は困難と予想される。異なる手法を同時に展開した際の、相互作用の有無を検討する(表2)。

②-1. 大型囲いワナ(固定)による捕獲(ルサ既存ワナの改良)

- 期間: 1月下旬ワナ改修、馴致・餌付誘引開始。2～3月に月に1～2回のペースで1回あたり多数頭の捕獲、搬出を試行。
- 実施候補地: ルサ川下流左岸(既存ワナ)
- 検討事項: 少数回多数頭捕獲と搬出の試行。ワナ構造改良、遠隔操作ゲートの試験。

②-2. 小型囲いワナ(立木等利用仮設式)による捕獲

- 期間: 12月下旬に設置、馴致・餌付誘引。1～3月捕獲。
- 実施候補地: 昆布浜付近の海岸段丘上に設置。
- 検討事項: 強風地区における小型囲いワナの構造検討。AI式自動落下ゲートの試験。囲いワナによる餌付け・誘引と巻狩り・流し猟SSの共存・連携について試行。海岸段丘上で捕獲した個体の搬出・処理法の検討。発射音が大きい装薬銃や薬品が高価な麻酔薬を用いない電気式止め刺し法も試行。

②-3. 流し猟式SS

- 期間: 12月下旬餌付け開始。1月中旬～3月に捕獲を実施。
- 実施候補地: 道道知床公園羅臼線沿い。
- 検討事項: 道道を一時閉鎖しての流し猟式SSの手法検討。

②-4. 巻狩り

- 期間: 1月に下見と詳細作戦策定。2月中旬と2月末(または3月上旬)に計2回捕獲実施。
- 実施候補地: 北浜～昆布浜南の間を想定。
- 検討事項: 急斜面の越冬地における大人数動員(約30名弱)による追い込み手法。小型囲いワナ設置箇所と流し猟SSを行う道路沿線の同地域の山中で、2回の巻狩りを試験することで下記を確認する。
 - 1) 山中で人に追われて警戒心が高まることによるSS等の効率への影響
 - 2) 日中、巻狩りで攪乱されても、夜間は囲いワナに入るか
 - 3) 巻狩りの攪乱による小形囲いワナや流し猟式SSの餌誘引への影響

表2. 平成23シカ年度のルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲手法試験(案)

手法	8~9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
						← 積雪十分に		← シカ 道路法面に集中		
							← 猛禽繁殖期			
						← 流水期				
						← ルサー FH 冬期閉館				
実施手法案	1. 巻狩り	← ハンター動員に関する交渉など			現地下見、作戦詳細検討		← 捕獲2回			
	2. 大型囲いワナ		改修設計 遠隔操作ゲート検討		← ワナ改修 馴致・餌付け期間		← 餌付け+捕獲 2 回 程度	← 餌付け+捕獲2回程 度		
	* 捕獲はシカを十分に誘引した上で月 1 回程度実施し、1 回に大量捕獲をめざす。									
	3. 小型囲いワナ		ワナ構造検討	← 場所選定 設計		← ワナ設置 馴致	← 餌付け 捕獲 2 回程度	← 餌付け 捕獲 2 回程度		
4. 餌付け+車から狙撃(流し猟SS)		← 路上発砲の法的検討と関係機関交渉		← 射撃訓練など		← 餌付け	← 餌付け+捕獲(道道知床公園羅臼線) 合計12回程度			

③知床岬地区における仕切り柵を用いたエゾシカ捕獲事業の検討

同地区では平成19年度から駆除を継続実施しており、今年度で5年目。これまでに469頭を駆除し、同地区の越冬個体数は半減(518頭から246頭)した。

今年度は今年10月に完成したシカ捕獲用仕切り柵を用いた捕獲法の試験を行い、目標であるエゾシカ密度(5頭/平方キロ)をめざした今後の継続的な捕獲方法を確立する。従来、多数頭を捕獲するためには20～25人の捕獲要員を投入していたが、どの程度の人数で効率的な捕獲ができるか試験を行う。また、仕切り柵によるシカの忌避効果、及び、捕獲の結果についてのモニタリングを行う(図3・表3)。

③-1. 中規模捕獲隊(10～12人)による捕獲試験(晩秋～初冬期)

●期間: 12月中下旬に1回

波浪のため実施できず。

③-2. 大規模捕獲隊(20人程度)による徹底的な捕獲試験(初冬期)

●期間: 12月下旬～1月上旬に1回

波浪のため実施できず。

③-3. 中規模捕獲隊(10～12人)による捕獲試験(春期)

●期間: 3月中下旬(流氷明けが遅い場合3月実施は不可能の場合もあり得る)に1回

12月～1月に実施できなかったため、可能なら2回実施する。

③-4. 小規模捕獲隊(6～8人)による捕獲試験(春期)、及び、草原出現個体モニタリング

●期間: 4月後半、及び、5月前半の2回。3～4日泊まり込みでの捕獲。

●検討事項: 少人数の捕獲試験を実施。追い込み(東区画)の他に、攪乱隊と狙撃隊に分かれた捕獲試験(西区画)、文吉湾の上ハイシート小屋からの狙撃試験(餌付け併用)など試行。

犬によるかく乱・追い込みも検討する。

●その他: 死体回収については、最終日に実施する。

③-5. 死体回収

●期間: 12月下旬～1月上旬、3月末の2回。回収したシカは文吉湾から船で搬出。

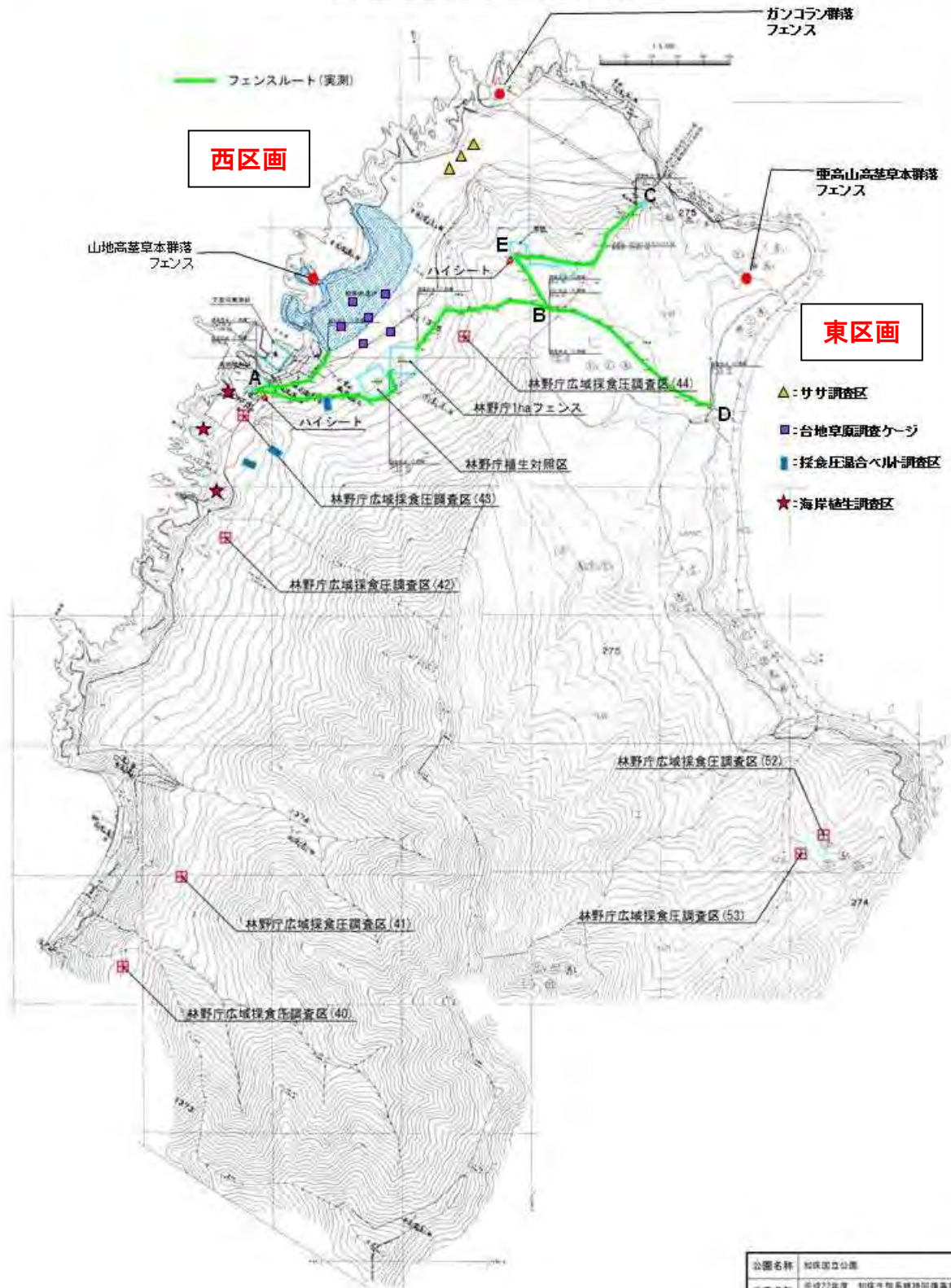
4月後半、及び、5月前半の2回の小規模隊による泊まり込みでの捕獲の際の死体は、各最終日に搬出。

③-6. 知床岬海岸段丘 厳冬期航空カウント

●期間: 2月中下旬。

●検討事項: 春期の捕獲に備えて、大規模隊による徹底捕獲後の現状把握。

図3 知床岬仕切柵, 植生調査区位置図 S=1:5000



公園名称	知床国立公園		
工事名称	平成22年度 知床生物多様性回復事業 知床岬地区仕切柵設置設計業務		
図面名称	知床岬仕切柵 植生調査区 位置図	縮尺	1/5,000
年月日	平成22年 12月	図面番号	〃
会社名	株式会社 アサヒ建設コンサルタント	編者	松村
事務所名	環境省 自然環境事務所	調査	松村
		設計	松村

表3. 平成23シカ年度の知床岬地区における仕切り柵を用いたエゾシカ捕獲事業（案）

	手法	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
			⇔ 時化の激しい期間		⇔ 流氷期			← 猛禽繁殖期
実施手法案	モニタリング				航空カウント 1回		草原出現数 カウント	
	中規模捕獲隊 による捕獲 (10~12人程度)		12月中下旬 捕獲1回			3月中下旬 捕獲1回 (可能なら2回)		
	大規模捕獲隊 による捕獲 (20人程度)		12月下旬 捕獲1回	1月上旬				
	小規模捕獲隊 による捕獲 (6~8人程度)						6~8人で 3泊4日 1回	6~8人で 3泊4日 1回
	死体回収 (10人程度)		12月下旬	1月上旬			3月下旬	小規模隊の死 体回収は、各 最終日に実施

⇔ 時化のため実施できず